

令和元年度 自己点検・自己評価表及び学校関係者評価 総括表

カテゴリー		評価項目		評価	平均	自己点検・自己評価(行動計画)	評価	平均	学校関係者評価
Ⅰ 教育理念・教育目的		1-1	教育理念・教育目的は自養成所の上の特徴を示している。	3	2.3	設置主体である労働者健康安全機構の理念は、文章化して明示しており、学生便覧や学校案内等で具体的に示している。	3	2.3	自己評価について支持する
		1-2	教育理念・教育目的は法との整合性がある。	3		保健師助産師看護師法、学校教育法、専修学校設置基準、保健師助産師看護師学校養成所指定規則に基づいている。	3		自己評価について支持する
		2-1	教育理念・教育目的は、学生にとって学習の指針になるように具体的に示している。	3		教育目標をさらに段階的に明示し、学年別到達目標として学生便覧で示している。学生の動機づけとして年度当初に説明している。	3		自己評価について支持する
		2-2	教育理念・教育目的は実際に学生の学習の指針になっている。	2			2		学生が意識化できるよう定期的に示し説明すること。
		3-1	教育理念・教育目的は、養成する看護師等の質を保障するために、どのような教育内容を設定しているかを述べている。	3			3		
		3-2	教育理念・教育目的は、養成する看護師等の質を保障するために、どのような教育方法をとるのかを述べている。	2			2		
		3-3	教育理念・教育目的は、養成する看護師等の質を保障するために、どのような教育環境をとるのかを述べている。	2			2		
		4-1	教育理念・教育目的は、看護、看護学教育、学生観について明示している。	1		人間、健康、環境、看護の概念を検討した上で、教育目的、教育目標、教育内容を具現化したものになっているが、明確に示されたものはない。	1		今後カリキュラムの評価、検討時において、教務で討議を重ねること。
		4-2	看護、看護学教育、学生観は実際に教師の教育活動の指針となっている。	1			1		
		5-1	教育理念・教育目的は、養成する看護師等が卒業時点においてもつべき資質を明示している。	3		理念、教育目的と一貫性のある教育目標には、卒業時に修得すべき能力、資質が具体的に明示されている。	3		自己評価について支持する
Ⅱ 教育目標		1	教育目標は、教育理念・教育目的と一貫性がある。	3	2.4	教育理念を実現するための具体的な教育目的、目標となっている。	3	2.4	自己評価について支持する
		2-1	教育目標は、設定した教育内容を網羅している。	2		教育目的、教育目標に基づき教育課程を編成しており、教育内容は網羅したものとなっている。教育目標はさらに学年別到達目標で具体的に、実現可能なものとして明示されている。	2		自己評価について支持する カリキュラム改正の作業の中で改善すべきことを洗い出し修正して欲しい。
		2-2	教育目標は、最上位の目標として、教育活動のゴールが読みとれるものとなっている。	2			2		
		3-1	教育目標は、目標内容と到達レベルが対応している。	2			2		
		3-2	教育目標は、具体的で実現可能なものとなっている。	3			3		
		4	看護実践者としての能力を育成する側面と、学習者としての成長を促すための側面から教育目標を設定している。	3		看護実践者、生涯成長し続ける人材育成、というキーワードのもと教育目標を明示している。	3		自己評価について支持する
		5	卒業後の継続教育の考え方を示した上で、教育目標を設定している。	2		カリキュラムデザインの構造図および文章で、基礎教育が卒後教育につながることを明示している。	2		自己評価について支持する
Ⅲ 教育課程経営	〈教育課程経営者の活動〉	1-1	教育過程編成者と教職員全体は、教育課程と授業実践、教育評価との関連性を明確に理解している。	3	2.5	教育課程編成の考え方を教職員、学生に明示し、これをふまえた活動を行っている。	3	2.5	新人または新任の教職員にも継続して指導すること。
		1-2	教育課程編成者と教職員全体は、教育理念・教育目的の達成に向けて一貫した活動を行っている。	2			2		
	〈教育課程編成の考え方とその具体的な構成〉	1-1	看護学の内容について明確な考え方と根拠をもって教育課程を編成している。	3	3.0	科目構成における方針と設定理由を明確にし教育課程を編成している。	3	3.0	自己評価について支持する カリキュラム改正の作業の中で改善すべきことを洗い出し修正すること。
		1-2	学修の到達について明確な考え方と根拠をもって教育課程を編成している。	3		教育目標の修得に関して段階的に到達度を設定し、さらに目標達成のための学科過程の配列について明示している。	3		
		1-3	学生の成長について明確な考え方と根拠をもって教育課程を編成している。	3			3		
	〈科目、単元構成〉	1-1	明確な考え方と根拠をもって科目を構成している。	2	2.6	単元については教育課程編成の考え方を軸に、各科目担当が構成している。一部に単元の考え方と教育理念・目的、教育目標と整合性が不十分な科目がある。	2	2.6	
		1-2	明確な考え方と根拠をもって単元を構成している。	2			2		
		1-3	科目と単元の構成の考え方は教育理念・目的、教育目標と整合性がある。	3		指導ガイドラインの看護師教育の基本的考え方に準拠した科目構成である。 特別科目として設定し設置主体の使命とともに設定理由を明示している。	3		
		2-1	構成した科目は看護師等を養成するのに妥当である。	3			3		
		2-2	構成した科目は養成所の特徴をあらわしている。	3			3		
	〈教育計画〉	1-1	単位履修の方法とその制約について教師・学生の双方がわかるように明示している。	3	2.7	学生便覧に明示している。履修については学生に不利益が生じないよう最大限の履修の機会が得られる方法としている。	3	2.7	自己評価について支持する 自己評価について支持する 自己評価について支持する
		1-2	単位履修の方法は学生の単位履修を支援するものとなっている。	2			2		
		2	単位履修制の考え方を踏まえつつ、看護師等になるための学修の質を維持できるように、科目の配列をしている。	3		学科目の配列は知識、技術、態度についての学習を段階的に積み上げ、最終段階では全体を包括する科目配列としている。	3		
	〈教育課程評価の体系〉	1-1	単位認定の基準は看護師等に必要な学修を認めるものとして妥当である。	3	2.4	単位認定に関する基準と方法は学生にあらかじめ提示している。	3	2.4	自己評価について支持する 自己評価について支持する 自己評価について支持する 今後検討していくこと。
		1-2	単位認定の方法は看護師等に必要な学修を認めるものとして妥当である。	3			3		
		2	他の高等教育機関と単位互換が可能な体制を整えている。	3		指定規則に基づき単位互換の体制を整備し明示している。	3		
		3-1	教育課程を評価する体系を整えている。	2		各科目で実施していた授業アンケートの項目や基準を統一し組織的に取り組むこととした。	2		
		3-2	評価結果の活用における倫理規定を明確にしている。	1			1		
	〈教員の教育・研究活動の充実〉	1-1	教員が専門性を発揮できるように、教員の担当科目と時間数を配分している。	3	2.0	領域ごとの担当教員が継続的に領域の科目を担当し、専門性を発揮している。	3	2.0	自己評価について支持する 今後、検討し整備すること。 自己評価について支持する 今後、検討していくこと。
		1-2	教員が授業準備のための時間をとれる体制を整えている。	1		授業準備に必要な時間管理は各教員に任されており体制としては整備できていない。	1		
		2-1	教育課程の実践者である教員が自ら成長できるよう、自己研鑽のシステムを整えている。	3		キャリア別の到達目標をもとに、主体的に研修参加。研究費の支給、研修日の業務調整等組織としての支援も整っている。	3		
		2-2	教員が相互に成長できるよう、相互研鑽のシステムを整えている。	1		相互研鑽のシステムは不十分である。	1		

	〈学生の看護実践体験の保障〉	1-1	臨地実習施設は、養成所の個別の教育理念・教育目的、教育目標を理解している。	2	2.7	実習要綱の本校における臨地実習の特徴について明記している。施設の管理者は理解されているが、直接の指導者への理解は十分でない。	2	2.8	実習の打ち合わせだけでなく、実習中にも説明し、ひとりでも多くの指導者への理解を深めること。
		1-2	臨地実習施設は学生の看護実践の学習を支援する体制を整えている。	3		実習指導案をもとに、実習支援体制を依頼し、対応している。また、指導者会議で、実習指導に関する情報交換を行っている。	3		自己評価について支持する
		2-1	臨地実習指導における学生の学びを保障するために、臨地実習指導者の役割を明確にしている。	3		実習指導体制で教員と指導者の役割を明確に示し、指導者会議で共有を行っている。また、指導案で詳細を示し、共有をしている。	3		自己評価について支持する
		2-2	臨地実習指導における学生の学びを保障するために、教員の役割を明確にしている。	3		実習指導体制で教員と指導者の役割を明確に示し、指導者会議で共有を行っている。また、指導案で詳細を示し、共有をしている。	3		自己評価について支持する
		2-3	臨地実習指導者と教員の協働体制を整えている。	3		実習指導体制で教員と指導者の役割を明確に示し、指導者会議で共有を行っている。また、指導案で詳細を示し、共有をしている。また、学生配置も実習計画表に適当数を配置している。	3		自己評価について支持する
		3-1	学生からのケアを受ける対象者の権利を尊重するための考え方を明示している。	3		臨地実習における倫理、個人情報の保護について明記している。	3		自己評価について支持する
		3-2	対象者の権利を尊重する考え方に基づいて、学生への指導を計画的に行っている。	3		実習オリエンテーション、各授業科目の中で説明を行っている。	3		自己評価について支持する
		4-1	臨地実習において学生が関係する事故を把握、分析している。	3		医療安全に関する内容を明記し、報告ルート、インシデント分析を行っている。	3		自己評価について支持する
		4-2	学生に対する安全教育、安全対策を計画的に行っている。	1		実習開始前の各学年での医療安全についての指導は実施しているが、実習開始後は、実習グループ毎での医療安全に関する振り返りは実施しているが、クラス全体を通しての事例に対して検討は実施できていない。(3年生)	2		全学年を対象とした特別講演で医療安全を上げていることは評価できる。学生の学習段階や実習進捗状況に応じた安全教育を計画し実施すること。
IV 教授・学習・評価過程	〈授業内容と教育過程との一貫性〉 〈看護学としての妥当性〉 〈授業内容間の関連と発展〉	1	授業の内容は、教育課程との関係において、当該学生のための授業内容として設定されている。	3	2.8	1～3迄は殆どの教員がよく当てはまると評価しており、教育理念、目的、目標をふまえ授業科目を設定し、各評価内容についても、毎年確認し見直しをしている結果であった。 4については大体当てはまるとよく当てはまると評価している教員が約半数半数であった。大体当てはまると評価した教員の中に「既習の内容を他の授業でも教授しているが内容間の関連や発展性を学生が理解できる明確に示せていない」学生に教授しているが授業内容間の重複については十分チェックできていない」等の意見があった。	3	2.8	概ね自己評価を支持する 複数での科目担当もあり、担当者間で共通認識を行うこと。
		2-1	授業内容のまとまりの考え方を明確に述べている。	3			3		
		2-2	授業内容のまとまりの考え方は、科目目標との整合性をもっている。	3			3		
		3	授業内容のまとまりは、看護学の教育内容として妥当性がある。	3			3		
		4	授業内容間の重複や整合性、発展性等が明確になっている。	2			2		
	〈授業の展開過程〉	1	授業形態(講義、演習、受験、実習)は、授業内容に応じて選択している。	3	2.3	1については殆どの教員が良く当てはまると評価している。2～3については、よく当てはまる。大体あてはまると評価した教員が殆どであり「シミュレーションの導入、他教員の協力によるゼミ形式の指導等授業内容や指導方法はシラバスに明示し学生、教員に周知している」「毎年、科目単元ごとに振り返りや見直しをしている」「必要な学習内容や参考資料を提示し支援している」「学生が体感しながら学習できるよう演習や視聴覚教材を工夫しながら講義している。」「講義形式以外にもグループワークなども取り入れながら実践している」など授業展開過程では教員により様々な工夫されている現状であった。現状の中には「略案を作成し授業内容に合った指導は行っているが講義の指導技術に関する考え方を明示したものは作成していない」「ややワンパターン化した科目もある」などの意見もあった。 4については「大体当てはまると評価した教員と当てあはまらないと評価した教員が半数の結果であった・「大体当てはまると評価した中に「講義、特に演習の際に複数の応援教員の依頼をしているが、教員への依頼は科目担当に任されている」等の意見があった。当てはまらないの中には「授業内容の考え方や教育方法について話し合う等の教員間の協力体制はほとんどない」「領域によっては協力してもらった状況がない」「他教員の協力を得る授業構成をとっていない」などの意見があった。	3	2.3	概ね自己評価を支持する 4については、他の講師・教員とも話し合い協力体制の強化をはかること。授業で他教員の協力を得る必要がある場合はシラバスに提示すること。その時々に必要な応援教員の依頼は技術担当と相談しながら教員の負担感が増強しないように配慮すること。
		2	授業展開に用いる指導技術についての考え方を授業計画等に明示し、実践している。	2			2		
		3	授業の展開過程の他に、学生の学習が深化、発展するための方法を意図的に選択し、学習を支援している。	2			2		
		4	学生に対し効果的な教育・指導を行うために、教員間の協力体制を明確にしている。	2			2		
	〈目標達成の評価とフィードバック〉	1-1	評価計画を立案し、実施している。	3	2.5	殆どの教員が良く当てあはまる。大体当てはまると評価している。授業評価については「各科目毎に担当教員が実施し授業評価をもとに講義内容の再検討をしている」「授業評価については科目終了時に実施している」「評価結果をもとに授業内容の振り返りを行い次年度の授業内容の検討などに活かしている」「講義に関しては終講試験での評価のみであり形成的評価は実施できていない」「授業評価は担当教員が学生の授業の参加度を観察し次の授業改善に活かしていない現状であり十分とはいえない」などの意見があった。	3	2.5	授業評価アンケートを導入し学生からの直接的な評価機能を引き続き実施し改善に役立てること。
		1-2	評価結果に基づいて、実際に授業を改善している。	2			2		
		2-1	学生および教育活動を多面的に評価するために、多様な評価の方法を取り入れている。	2		殆どの教員が、大体当てはまる、よく当てはまると評価している。実習に関しては毎年教務会議で教育目標の達成状況と課題を明確にし、臨地実習施設と共有している。実習アンケートは実施・問題点を病棟と共有し改善している。	2		多面的評価となるような様々な評価方法を取り入れ、また、形成評価を行い学生の理解状況の把握、授業目標の達成状況の把握に努めること。
		2-2	教育目標の達成状況を多面的に把握している。	2			2		
		3-1	学生に単位認定のための評価基準と方法を公表している。	3			3		
		3-2	単位認定の評価には公平性が保たれている。	3			3		自己評価について支持する
	〈学習への動機づけと支援〉	1-1	シラバスの提示や学習への指導は、養成所全体としての一貫性がある。	3	2.5	殆どの教員が良く当てあはまる。大体当てはまると評価している。「組織的、統一的なシラバスの提示、活用が出来ている。全体でシラバスの見直しを行い学生がわかりやすいものとしている」年度終りに次年度の学年シラバスを配布しており次年度の学習意欲に繋がっている」等や「学生がもシラバスをみて学習内容を把握する行動が定着してきていない」等の意見もあった。	3	2.5	講義の始めだけでなく毎回シラバスを見るように繰り返し説明すること。授業のまとまり毎にシラバスを提示し、授業内容や目標の確認をするとともにより具体的な内容の記述を行い学習の動機づけとなるよう活用すること。 学習支援に関しては、客観的評価を取り入れるとともに、本時の授業開始時に学習目標を提示し、授業展開をすること。
		1-2	シラバスの提示や学習への指導は、学生の学習への動機づけと支援になっている。	2			2		
V 経営・管理過程	〈設置者の意思・指針〉	1-1	養成所の管理者は教育理念・教育目的についての考え方を明示している。	2	2.8	5年間を見据えた中長期的な施設運営方針及び展望をもとに事業戦略を策定している。勤労者医療に貢献できる優秀な看護師の育成をビジョンとし、①利用者の視点②質の向上の視点③財務の視点④効率化の視点⑤組織の学習と成長の視点の各基本方針を明示し、運営会議、職員会議で共有している。	2	2.8	自己評価を支持する
		1-2	養成所の管理者は教育課程経営についての考え方を明示している。	3			3		
		1-3	養成所の管理者は教育評価についての考え方を明示している。	3			3		
		1-4	養成所の管理者は養成所の管理運営等についての考え方を明示している。	3			3		
		1-5	明示した管理者の考えと、設置者の意思とは一貫性がある。	3			3		
		1-6	教職員は養成所の設置者と管理者の考え方を理解している。	3			3		
	〈組織体制〉	1-1	養成所の組織体制は、教育理念・目的を達成するための権限や役割機能が明確になっている。	3	3.0	幹部会議で検討し、その結果を職員会議等で教職員に周知している。幹部会議で企画立案し、職員会議に諮り決定している。機構本部や岡山県から通知される重要事項については幹部会議、職員会議で周知している。	3	3.0	自己評価を支持する
		1-2	意思決定システムが明確になっている。	3			3		
		1-3	意思決定システムは、組織構成員の意思を反映できるように整えられている。	3			3		
		1-4	意思決定システムは、決定事項が周知できるように整えられている。	3			3		
		2-1	組織の構成と教職員の任用の考え方と、教育理念・教育目的達成との整合性がある。	3			3		
		2-2	教職員の資質の向上についての考え方と対策には教育理念・教育目的達成との整合性がある。	3			3		

	〈財政基盤〉	1-1	財政基盤を確保することについての考え方が明確である。	2	2.0	職員の意見を反映させた運営計画書を作成し、それを基に予算計画を立てている。 職員会議においても中間収支等で経営状況の説明を行い共有化を図っている。	2	2.0	経年使用により更新が必要な教材備品等については、可能な限り整備を行うこと。また学生寮に対しても不良箇所の点検等を定期的に行うこと。
		1-2	財政基盤を確保することについての考え方は、学習・教育の質の維持・向上につながっている。	2			2		
		2-1	教職員は、養成所がどのような財政基盤によって成り立っているかを理解している。	2			2		
		2-2	教職員のそれぞれの観点からの財政についての意見は、経営・管理過程に反映できるようになっている。	2			2		
	〈施設設備の整備〉	1-1	学習・教育環境の整備について、管理者の考え方を明示している。	3	3.0	平成29年9月に新校舎が竣工し、併せて機器の更新を図っている。 施設及び機器については職員の要望を基に長期計画を立て整備を行っている。	3	3.0	自己評価を支持する
		1-2	管理者の考え方に基ついて整備計画を立案し、実施している。	3			3		
		2-1	看護の専門職教育に必要な施設設備を計画的に整備している。	3			3		
		2-2	医療・看護の発展や学生層の変化に合わせて、施設設備を整備・改善している。	3			3		
		3-1	養成所が設置されている地域環境との関連から学生および教職員にとつての福利厚生施設の設備の整備を検討してい	3			3		
		3-2	学生が学生生活を円滑に送り、教職員が職務を円滑に遂行できるように施設設備を整備している。	3			3		
	〈学生生活の支援〉	1-1	学生が入学後に学修を継続できる支援体制を多角的に整えている。	3	2.7	担任制により継続的に支援、メンタルサポートとしてスクールカウンセリングを整備し活用できている。さらに今年度より、観察法、面接法だけでなく調査法を導入し、支援が必要な学生のスクリーニングを強化している。	3	2.7	自己評価を支持する
		1-2	学生が活用しやすいように学生生活の支援体制を整えている。	3			3		
		1-3	支援体制は、実際に学生に活用され、学修の継続を助けている。	2			2		
	〈養成所に関する情報提供〉	1-1	教育・学習活動に関する情報提供を関係者(保護者等)に行っている。	3	3.0	入学時には保護者に向けて説明会を開催し、それ以降では連絡ツールを活用して情報提供を行っている。また、学生の状況によっては個別に担任等から電話や面談にて情報提供を行っている。 学生の現状を伝えることで、保護者からも理解していただき協力を得ることができている。 学校や就職先のメリットを伝え、また学校の求める学生についてもしっかりアピールしている。 質問があれば、以後の説明内容に活かすようにしている。また、毎年資料についても見直し、修正をしている。	3	3.0	自己評価を支持する
		1-2	関係者(保護者等)への情報提供は関係者から協力・支援を得ることにつながっている。	3			3		自己評価を支持する
		2-1	看護師等を養成する機関としての存在を、十分にアピールする広報活動を適切に行なっている。	3			3		自己評価を支持する
		2-2	広報の内容は、社会的説明責任を果たすものになっている。	3			3		自己評価を支持する
	〈養成所の運営計画と将来構想〉	1-1	養成所は明確な将来構想のもとに、運営の中、長期計画、短期計画、年間計画を立案している。	3	3.0	主務大臣が示す中期目標に基づき、機構が中長期的な施設運営方針及び展望(H30～35)を策定、これをふまえて運営計画を立案している。BSCの活用や自己点検自己評価委員会活動等により、実施、評価を行い整合性を備えた取り組みとなっている。	3	3.0	自己評価を支持する
		1-2	その実施・評価は将来構想との整合性をもっている。	3			3		
	〈自己点検・自己評価体制〉	1-1	自己点検・自己評価の意味と目的を理解している。	3	2.0	今年度より、自己点検・自己評価委員会が中心となり、意義目的を確認、スケジュールと方法を共有し、自己点検・自己評価に取り組むこととした。	3	2.2	学生に授業、実習のアンケートを取るなど改善に取り組んでいることは評価できる。PDCAサイクルを回しながら更なる改善を図って欲しい。
		1-2	実際に自己点検・自己評価を行うための知識と方法を明確にもっている。	2			2		
		2-1	自己点検・自己評価体制を整え、運用している。	2			2		
		2-2	自己点検・自己評価は、養成所のカリキュラム運営、授業実践にフィードバックするように機能している。	1			2		
		2-3	自己点検・自己評価体制は、養成所の教育理念・教育目的・教育目標の維持・改善につながるように機能している。	2			2		
Ⅵ入学		1	教育理念・教育目的との一貫性をもって入学者選抜についての考え方を述べている。	2	2.5	入学者の選抜方法は、合格者決定基準に定めており、それに則って実施している。入学者の状況については、可否判定会議、運営会議で、教職員等からの意見を聴いたうえで、検証を行っている。	2	2.5	自己評価を指示する
		2	入学者状況、入学者の推移について、入学者選抜方法の妥当性及び教育効果の視点から分析し、検証している。	3			3		
Ⅶ卒業・就業・進学		1	卒業時の到達状況を捉える方法が明確であり、計画的に行っている。	3	2.3	規程、基準に則り評価し、職員会議等で教職員からの意見を聴いたうえで検証を行っている。	3	2.3	自己評価を支持する
		2-1	卒業時の到達状況を分析している。	3			3		
		2-2	卒業生の就業・進学状況を分析している。	3			3		
		2-3	卒業生の到達状況、就業・進学状況についての分析結果は、教育理念・教育目標との整合性がある。	3			3		
		3-1	卒業時の就業先での評価を把握し、問題を明確にしている。	2			2		今後検討していくこと
		3-2	卒業時の就業先との情報交換や調査の実施等ができる体制を整えている。	2			2		
		4-1	卒業生の活動状況を把握し、統計的に整理している。	1			1		
		4-2	卒業生の活動状況の分析結果を、教育理念・教育目的、教育目標、授業の展開に活用している。	1			1		
Ⅷ地域社会/国際交流	〈地域社会〉	1-1	社会との連携に向けて、地域のニーズを把握している。	1	1.3	災害対策において地域の特徴を把握し、緊急避難的に岡山労災病院からの要請により学校施設を開放するという点で地域貢献の体制を整備している。また学校の施設は地域の講演会、病院の研修の場として利用されている。 また、近隣の実習関連施設におけるボランティアを学生に奨励し、積極的に参加できている。	1	1.3	地域の保健医療福祉の資源について、情報収集し教育活動にどのように活用できるか検討し明文化するとともに地域資源を積極的に活用することで相互の関係を密着にし、教育課程開発につなげていくこと。
		1-2	看護教育活動を通して地域社会への貢献を組織的にしている。	1			1		
		2-1	養成所ので教育活動について、地域社会のニーズを把握する手段をもっている。	2			2		
		2-2	養成所から地域社会へ情報を発信する手段をもっている。	1			1		
		3-1	養成所が設置されている地域の特徴を把握している。	1			1		
		3-2	地域内における諸資源を養成所の学習・教育活動に取り入れている。	2			2		
	〈国際社会〉	1	国際的視野を広げるための授業科目を設定している。	3	1.5	看護管理の科目において、国際看護の単元を位置付けている。 留学生を受け入れるための体制は整っておらず困難である。 労災病院で勤務者医療が実践できる看護師を養成している。	3	1.5	今後の検討課題とすること
		2	国際的視野を広げるための自己学習に適した環境を整えている。	1			1		
		3	海外からの帰国学生や留学生の受け入れ体制を整えている。	1			1		
		4	留学や海外において看護職に就くこと等を希望する学生に対応できる体制を整えている。	1			1		
Ⅸ研究		1	教員の研究活動を保障(時間的、財政的、環境的)している。	2	1.7	組織としてキャリア別達成目標を提示しており、各教員が目標達成にむけて積極的に学会や研修に参加している。自己研鑽に関する要望には時間的、環境的に配慮し、また研究費支給により財政面の体制も整備している。	2	1.7	自己評価を支持する 管理者による目標管理を実施し個別に対応していることについて評価する。
		2	教員の研究活動を助言・検討する体制を整えている。	1			1		
		3	研究に価値をおき、研究活動を教員相互で支援し合う文化的素地が養成所内にある。	2			2		
			全項目平均	2.4		全項目平均	2.4		全項目平均